

# 思春期におけるキャリア教育の進め方 ーカウンセリングの理論と技法によるアプローチー

赤 岡 美津子

## Ⅰ・問題意識

昨今、若年無業者・フリーターやニートという文字を目にしない日はない。不本意入学や無目的入学による学校不適應もまた同様である。平成 22 年 12 月 1 日現在、大学等卒業予定者の就職内定率は 68.8% (前年比－4.3 ポイント) である。男女別で見れば男子 70.1% (同－2.9 ポイント)、女子 67.4% (同－5.8 ポイント) である (厚生労働省・文部科学省 2011)。この厳しい状況の中で、学生達は明確な職業イメージを持ち得ないことがある。「とりあえず、何でも良いから就職」へと駆り立てられざるを得ない。また、男女雇用機会均等法の施行 (1986 年 4 月、改正 1999 年 4 月) にもかかわらず、職業生活を中断若しくはパートタイマー化せざるを得ない女性就業者達も多い。また採用状況の問題が、女性達を専業主婦志向へと向かわせる。20 代以下では半数に近いという。

一方、文部科学省は、小中高校を通じた「キャリア教育」の推進を喧伝している。1999 年の中央教育審議会答申では、「キャリア教育」について、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」と定義した。2004 年には、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれに相応しいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」と答申した (国立教育政策研究所 2004)。さらに 2010 年には、「一人

一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度の育成を通して、キャリア発達を促す教育」と再定義し（中央教育審議会 2010）、基礎的・汎用的能力の育成を強調している。

学校教育においてキャリア教育は、職業指導、進路指導、キャリア教育と呼称を替えながら、特別活動の 1 分野として取り組まれてきた。具体的には第 1 に、繰り返される進路希望調査である。第 2 に、高等学校や大学の見学会である。第 3 に、「13 歳のハローワーク」（村上 2003）「私のしごと館」に代表される職業紹介である。そして第 4 には、職場見学や職場体験やインターンシップ等の就労体験（文部科学省 2005）等である。

しかし生徒の大半は、「キャリア教育」「進路相談」というと、「進学先を決めるための成績懇談」、または「本人と保護者に対して担当教師が学業成績表を示しつつ話をするもの」と理解している。その結果彼らの関心は、学習成績や目先の進路など近い未来のことに集まりがちである。自分の人生を長いスパンで見て、今何を為すべきなのかを考えていない場合が多い（平田 2005）。

本論では、学校現場の教育実践において文部科学省の掲げる「キャリア教育」の実現の為に何が必要かを考察する。

田村・松井（2006）によると、上記第 1 から第 4 の教育実践において、一定の成果は見られる。しかしこれらの実践は、一斉授業の中での集団指導やグループ指導や、学校行事としてなされている。一方、生徒達は自我意識に目覚め、現在や未来に対して期待と失意、自信と不安に間を揺れ動いている。従って生徒達に対しては、継続的になされる個人への働き掛けが更に必要である。即ち、「一人ひとりに対する進路相談」「一人ひとりが自己を見詰め、理解し、適正を考え、それを伸ばし育てていく」対応が必要である。学校における「個に対応した」「キャリアカウンセリング」が不可欠である。

ここでの課題は、2 点である。第 1 に、意志力や耐性に個人差がある中で、如何にして全ての生徒一人ひとりにその作業を可能にするかということである。

第2に、子ども達は思春期の特性として本音を語りたがらない。どのような関わり方で彼等を安心させるか、自らの心を開き、夢を思い描いて語らせるか、未来を志向させるかという点である。その為には、教師と生徒の心が互いに響き合い、共に将来展望を語り合う事が前提である。また、その手法の獲得が必要である。

従って本研究の目的と意義は、生徒の心に響き、かつ、実践に繋がる「キャリアカウンセリング」の方法を提示することである。またそれによって、学校における「実効性のあるキャリア教育」に資することである。

## II・方法

本研究では、「描画」と「面接（来談者中心面接）」の組み合わせを試みた。

### （1）調査対象

A中学校3年生全員104名。

A中学校は、現在の地域社会の状況をほぼ平均的に映し出しているといつてよい。学力的には、各教科研究会テストの結果は全市中平均的である。環境は、自然と市街が程よく融け合い、家庭の職業も、自営業、給与生活者が混在している。母親の有職率も平均的であり、その大半が卒業ー就職ー結婚ー出産ー再就職（非正規雇用）の経過をたどっている。学校の雰囲気は安定しており、日々の学習活動は円滑である。

### （2）調査時期

【描画】200X年10月

A中学校では、毎年10月下旬に3年生全員を対象に課題画を描かせている。「あなたの人生最良の日を思い浮かべ、それを絵にきなさい」というものである。B4の用紙に鉛筆で書く。内容は自由であること、必要ならばコメントを余白に付してもよいことを伝える。

【面接】200X年11月

時間的制約多大な中でのインタビューである為、無作為抽出で18名を対象とした。描画を媒介として、生徒の気持ちと選んだ話題についての自由な語りを尊重しつつ、次の問いかけを共通して挿入した。

①モデルの存在 ②保護者の養育姿勢 ③情報源や話し相手 ④保護者達の生き方についての思い ⑤「最良の日」実現の為の方策 ⑥これからの生き方

### Ⅲ・事例紹介

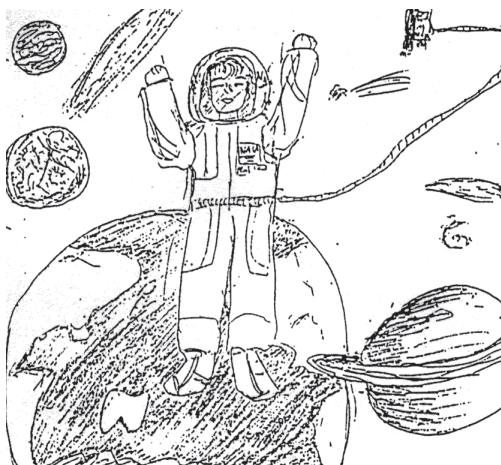
1) 描画紹介 104人の絵の一部を紹介する。



2) 面接の実施 18の面接の中、8例を紹介する。Mは男子、Fは女子生徒である。「」は生徒、<>は筆者の言を示す。

面接 1・F

描画：宇宙飛行士



家族： 父・自営業 母・家業手伝い 本児

＜本当に楽しそうな顔をした絵ね。これについてお話ししてね。＞「これは別に宇宙飛行士である必要はないのです。ごみごみした地球を離れて、無限の宇宙に行けば、違う何かが見えてくると思う。」「地球って汚いじゃないですか。空気も環境も何もかも。皆が小さな所に押し込められて、蠢きながら生きている。こんな所から消えてしまいたいと時々思う。もっと伸びやかに生きたい。」「宇宙飛行士でも旅行者でもライターでも良い。自分の感動を本にして、素晴らしいさを皆に伝えることを仕事にしたいのです。」「決められた、皆と同じ事はしたくない。それが自分のなりたい自分に近づく事だと思う。」

＜そんなふうに思うようになった動機とか、お手本はあるのかしら。＞「モデルはありません。宇宙の絵とか本の影響です。部屋は写真がいっぱい。人は『女の子なのに変わっている。』と言うけれど、私としては自然な事。」

＜お家の方はどんなふうに？＞「誰も宇宙の事には興味がない。『良い大学の理工系に進学して宇宙飛行士になれば。』と言ったのにはがっかり。宇宙、即

宇宙飛行士としか考えないその視野の狭さが嫌。」「小学校では自由奔放に出来た。中学校は、何時も抑えられているような気がする。その圧迫感が無限の宇宙への憧れに繋がったと自覚している。」「私の家は3代続いている和菓子屋さんです。母は家業に縛られているし、父は養子で店の為に会社勤めを辞めた。親戚の人達も皆、縛られている。だから私は自分の望む事をやろうと思う。」「夢の実現の為にプランはあるの。」「日本の高校で宇宙について学習出来る所はないようだから、途中で留学したい。大学も、国は問わないが宇宙について勉強出来る所に進学したい。主として文筆で宇宙に関わりたい。」「結婚はしたいが、自分の目的を遂げてからにしたい。」

# 面接2・F

描画：ラウンジでくつろぐキャリアウーマン。社会人になった自分がバリバリのキャリアウーマンになって。たまにストレス解消の為、飲み屋さんに行っているところです。時間があれば、窓から見える夜景を書きたかったのですが、描けなくて残念です。



家族： 父・本児3歳の時に病没 母・会社員

姉・大学4回生。メーカーに就職が内定している 本児

＜この絵についてお話ししてね。＞「今、受験を控えて色々悩んでいる。志望校はしっかりあるが、合格するかどうかとても心配。私は一つ心配事があれば他が見えなくなってしまうタイプだから、しっかりしなければと思っている。」「合格して、コンピュータにも堪能になっておきたい。将来の仕事の為に必要だから。」「しっかりした大学に行き、きちっとしたところに就職してバリバリ仕事をしたい。仕事をしながら自分の趣味ー書道が大好き。それと英語やその他色々も楽しみたい。」「仕事に疲れた時など、こういうホテルのスカイラウンジのような所へ行ってみたい。屹度心が安まると思うから。本当は夜景とか沢山の同僚を描きたかったのだけれど。」「結婚はしたいと思うけれど、先ず仕事をしたい。だって毎日ダラダラしたくない。」「主婦の仕事はダラダラしていて、ボーッとしているように思う。ああはなりたくない。母の友達の専業主婦達を見ているとそう思う。それに家にいれば、接する人も限られていて考え方も狭くなり、自分の存在が人に知られない。私は他に認められて、自分の存在を主張したいと思う。」「私の父は会社員だった。私が3歳の時病気で亡くなった。父が亡くなってから私は『しっかりしなければ』と思っている。だから就職はしっかりした所と思っている。結婚も、死別を経験しているから怖いと思うところもある。」「母はそれまで専業主婦だったけれど、社宅の管理人にして貰って今日まできている。母は流れの中に身を任せ、弱いと思う。主張はないし、私の対立する壁にはならない。私はもっと強く个性的に生きたい。」

＜あなたの夢のモデルのようなものはあるのかしら。＞「私は書道が好きで習っているけれど、そこで一緒に女性。姉と同年でA大学へ行っていて、こんな時期なのにしっかりした所に就職を決めて、以前から素敵と思っていた。この間、『お稽古が終わったら仲間と飲みに行く。』と話しているのを聞いて、とても良いなと思った。」「勿論私が優先させるのは、仕事。人の稼いだお金で



飲みに行っても仕方がない。」「母や姉はモデルではない。姉には憧れていないし、性格も合わない。」

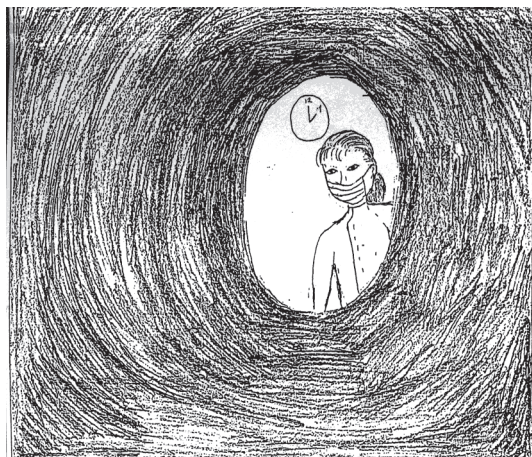
＜お家の方はどんなふうな事をあなたに仰るのかしら。＞「何も言わない。自由にさせてくれる。でも、お母さんはもっとお母さんらしくしたほうが良いと思う。他の親はもっと叱るし、自分を主張する。お母さんは私の前に立ちはだからない。」

＜あなたの夢を実現する為に、どんな事を考えているの。＞「とにかく高校に合格して、4年制大学に行きたい。そして憧れの人のようになりたい。バリバリ仕事をするが、威張る人にはなりたくない。結婚して、夫が仕事ばかりで家庭を顧みない人であれば、とても揉めるでしょうね。その時はよく話し合っ  
てそれでも顧みてくれなければどうしましょう。離婚などは出来ないし。あっ、そうか。結婚する前にしっかりとその人を見抜かないと。」

### 面接3・F

描画：誕生直前の私が母の産道から外界を見ている図

時計に着目して下さい。私が生まれたのは1:00です。なんと言っても最良の時は生まれた時だと思いませんか。





家族： 父・公務員 母・公務員 姉・大学工学部1年生  
姉・高校2年生 本児

<意表をついた構図ね。お話ししてくれる。>「この女性は助産師。お母さんが言うには、『自分の体の中から全く別の人格を持った人が出てくるのがとても不思議。一体どんな声をして話すのか、楽しみだった。』って。」「高校2年の姉もこの課題で絵を描いた時、同じ絵を描いたと先生が言っていた。偶然と言うより、私がその事をどこかで覚えていたのかも知れない。姉に聞いたら、絵の話の家でした事があると言っていた。」「この絵を描いた理由という、生まれてきたから今がある。とにかく生まれた事が一番。でも、こんな事が言えるのは今がとても幸せで、現在の自分や生活が肯定出来るから。」「私の家族は何時も話している。頑張って話さないと機会が無くなる。競争して話している。」「小説なんかでも、他の4人が読んでいたので私も読んで感想文を書いた。(次)姉に『この感想文を読んで。』と言ったら、『あんたの感じ方は私に似ている。』と言っていた。」「歌も5人で5つのパートに分かれてよく歌っている。伴奏は交替でしている。父は声は良いけれど音痴だ。」「家に帰ったら全員先ず台所に集まる。」「朝は父の車で母が駅まで送ってもらう。その後姉を高校へ送って父の職場へ行っている。」

<お家の方はあなたに対してどんなふうだった。><身近な方で、素敵だなとおもう方があるの。>「母と姉達。考え方がともしっかりしている。それから祖父母。『勉強すると社会の事がよく分かるから、勉強は大事だ。』とよく言っている。」「姉達のプレッシャーはとても強い。家庭では両親も姉も、私たちはそれぞれ別と考えてくれる。でも世間はプレッシャーをかける。世間は、B家の3才女なんて言っているから。でも私は2人ほど賢くはない。どうしても比べてしまう。性格的にも甘えっ子だし。今、弟か妹が生まれたら大変だろう。愛情を取られた経験が私にはないから。」「3人を比較しない親は偉いと思う。それに比べて私は性格が悪いとつくづく思う。『自分がその立場だったら

どうかという事を考えなさい。』と言われ、それを考えるようにしている。」「高校は姉と同じC校を希望している。でも、落ちた時の覚悟もある。」「大人になったら結婚したい。子供を産んでも働きたい。」「両親が働いていて家の中はひっくり返っているし、母は家事もそこそこに慌ただしく出て行く。」「小学校の学童保育の後、1人で家の鍵を開け（注：姉達は高学年だから帰宅が遅い）、だんだん暗くなる部屋の中にいるのはとても寂しかった。晩秋などこたつのある部屋で、身動きしたら怖いからじっとしていた。『テレビを見てはいけない。』と言われていたからそれを守っていた。とても怖かった。」

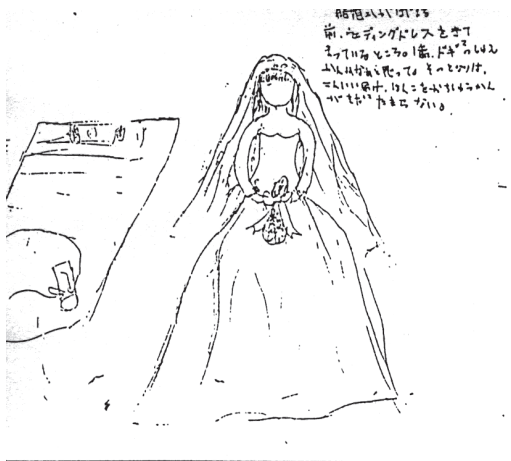
＜それでも仕事をしたいと思うのね。＞「社会の中で自分の居場所を置いておきたい。自分を必要とし、受け入れられる場所が必要。風邪を引いて学校を休んだ時、他の家族が帰宅して外であった事の話をする、自分だけが活動から取り残された感じがしてとても嫌だった。専業主婦だと毎日がそんな感じになる。」「父は母が仕事をするのを当然だと思っている。職場結婚で働く女性を選んだ父は偉い。父も家事を分担している。そうしなければ母は働けない。『食事の支度は私だけの仕事ではない。』と母は言っている。」「私の結婚もそう。相手を選ぶと同時に、教育しなければと思う。」「お祖母ちゃん（母方祖母）は、隣に住んでいる。家と家は10cm離れている。これがとても大切。お祖母ちゃんは『私の所へ養子に来るか。』と言っている。私は同居しても良いかなとも思っているが、玄関が別、空間が別というのが大切だと思っている。」

＜希望に近づく為に考えている事は、どんな事。＞「周囲の人を大切にしていきたい。今の出会いを大事にしていきたい。」「職業としては、弁護士になりたい。姉はそれぞれ目標を持っていて、弁護士は（次）姉の希望だった。でもこの頃は医学部に行きたいと言っている。私に『あんたは口が達者やし、弁護士に向いている。』と言う。私もそうなりたいと思っているので、勉強して考える力をつけたい。」「その辺のおばさんのいい加減さは嫌。」「今勉強しなければ勿体ないと。受験に失敗しても仕方がないけれど、今、頑張りたい。」「今日

話したのは、とても楽しかったです。先生はどんなレポートにするのですか。」  
「有難う御座いました。」

面接 4・F

描画：結婚式が始まる前、ウェディングドレスを着て待っているところ。1番ドキドキの瞬間かなと思って。その隣は婚姻届、はんこを押す瞬間がまたたまらない。



家族： 父・会社員 母・教員 姉・高校2年生 本児

<この絵についてお話ししてね。> 「小さい時から、きれいなウェディングドレスを着て好きな人と結婚したいと考えていた。その時が1番嬉しい時かなと思う。自分の子どもの絵も描きたいと思っていたが、時間が足りなかった。私は子どもが大好きで、母が私や姉を出産した時の感動を聞かされてもいるから、子どもは沢山ほしい。女の子は1人は必ず欲しい。家庭の中の潤いだから。出来れば、男・女・男・女の順が良い。」「私の家族はとても良い家族だと思う。休みの日には皆で出かける。父とも仲が良い。姉も父と手を繋いで歩いている。家事の分担も出来ている。姉はお風呂沸かしとその掃除、私は洗濯、食事の支

度は母、母がいない時は私と姉で。後片付けは3人です。」＜お父さんは。＞  
「父はしない。でも、女性たちが出来ない時には手伝う。」「姉や私が保育園の時、送迎は父が車でしてくれていた。」「父と母は仲良しで、2人でよく出かけている。」「朝食も夕食も四人揃ってとる。お喋りでとても賑やか。女性3人がよく話し、父は聞き上手だ。」「私の計画は、高校に入学して、ピアノを習って、大学の保育科に入学して、保育士として就職する。それから結婚して、出産して、退職して専業主婦になる、というコース。」「子どもが外から帰ってきた時に『お帰り。』と言ってあげたいから、仕事を辞めて家にいる。私が小さかった頃、学童保育から帰って暗い家の鍵を開けるのがとても寂しかった。自分の子どもにはあの思いをさせたくない。」「母はとても強い人。今は父と意見が対立しても言い争いはせず、『ハイハイ。』と聞き流している。でも、厳しい人生を選んでいる。『自分の子どもは教師にさせたくない。』と言っている。毎日の忙しさ、教師間の人間関係の難しさ等、大変みたい。1年生なんて、野生動物みたいだと言っていた。でも楽しい事もあって、その話をとても嬉しそうにしてくれる。」「私は両親が働いているため、親のいない時は友達を家に呼ぶ事が出来なかった。誕生会もしてもらえなかった。自分の所がしないのだから招待もされなかった。寂しかった。だから子どもが小学生の間はずっと家にいてあげようと思う。小学校高学年ぐらいになったら、仕事を再開しようと思う。保育士の仕事はそれが可能だから。」

＜あなたがそんなふうに人生設計を考える時、モデルのような人があったのかしら。＞「母のようにになりたいとも思う。私にとってはとても良いお母さん。仕事をしている事の充実感を感じる。憧れるが、子どもの事を考えたら同じようにしたくない。」「それと、お父さんのような男性とは結婚したくない。頑固で自分の思いどおりにならないとすぐに怒る。私の小さかった頃はよく夫婦喧嘩をしていて、私はとても辛かった。人には厳しいが自分には甘い。母も『こんな人と結婚したらあかんよ。』と言っている。」「母や父はいつも、協力・責任・

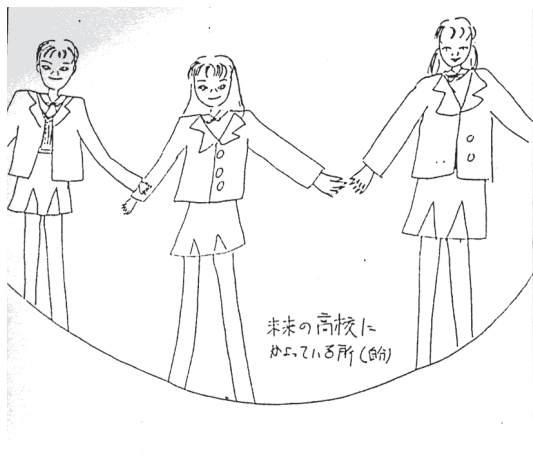
家族の仲の良さ、を強調する。姉と私はよく対立して喧嘩も多いけれど、姉はしっかりしていて突っかかり甲斐のある人。共通点も多く、保育士希望も同じ。ピアノが上手で、姉の伴奏で歌う事も多い。」

＜貴女が素晴らしいなと思う方についてもっとお話して。＞ 「私の従姉妹のお母さん、つまり私の叔母、母の妹に当たる人。最初は教師をしていたが結婚退職をして、今は家でピアノを教えている。とても良い主婦。ケーキを焼いて、お花を育てて、月1回家族会議を開いて家族新聞を発行し、親戚に送ってくれる。彼女は自分のしたい事をし、生活を楽しんでいる。夫婦でコーラスグループに参加し、アメフト観戦にも出かける。」「結局私のモデルって、母・叔母・自分の体験のミックスなのかな。」

＜実現の為のプランなどがあれば、聞かせて。＞ 「高校は私立女子校が良い。大学は4年制に行って、いい人を見つけたい。優しく明るく、私より背が高く、得意なスポーツのある人。職種にはこだわらない。」「いい人を見つけたら、早く結婚したい。22歳ぐらいが良い。母は姉を24歳で、私を26歳で産んだから、私も若いお母さんになりたい。『お母さん、若いな。』と言われるのは嬉しいから。」「私はあまり頭が良くない。保育士になるといっても採用が大変な事は母から聞いている。結婚は是非したいし、子どもも沢山欲しい。はじめから専業主婦でも良い。」

## 面接 5・F

描画：高校に通っている私



家族： 父方祖父・祖母 父・会社員 母・パート勤務

弟・小学校5年生 本児

＜この絵についてお話ししてね。＞「高校に入って、新しい友達を作った時。今も友達と上手くいっているが、高校でも沢山友達を作りたい。英語コースのある私立に行きたい。D女子高校は交換留学制度を持っているから、そこへ行きたい。大学はD女子大学の英文学科へ進学したい。そして英語を使って人と接する仕事をしたい。例えば、トラベルクリエイター、ホテルウーマン、通訳、英語教師など。職業適性検査でも人と接する仕事に向いていると出ている。」  
 「ずっとキャリアウーマンでいくのも良いし、自分で塾を開くのもいい。もし結婚しても英語関係の仕事をするのはかっこいいし、自分の子どもにも英語を教えたい。E先生みたいに。家事も良いけれど、やっぱり英語に関わる仕事をしたい。」

＜あなたがそんなふうに考えるのには、何かお手本があるのかしら。＞「担任のF先生。キリっとしていて責任感も強く、叱る時はしっかり叱って指導力

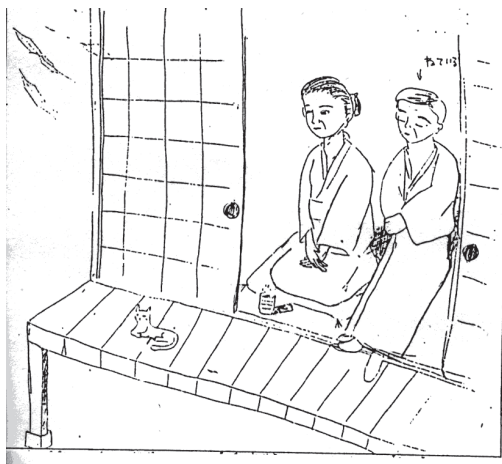
がある。先生の授業の初めは何時も皆で英語の歌を歌うのが楽しい。F先生は初めはスチュワーズ志望だったと言っていた。私はそれ程格好良くはないし、身長も足りないし。」「それと、英語塾で個人指導を受けているけれど、その先生も格好良い。キャリアウーマン風。子どももいて、家庭的な感じもする。」

＜お家の方はどんなふうに。＞「別に何も。家族は皆、英語嫌い。お父さんが『英語は難しいから、塾に行きなさい。』と言った。教科書的な受験英語の塾を勧めたが、私が主張して英会話塾に決めた。」

＜そんな夢の実現の為に、何か考えている事は。＞「今はとにかく勉強しかない。期末テストの結果で、D女子高校英語コースの推薦が可能になる。入学後も勉強する。夢の実現の為には勉強しかないのだから。」「父や母は、夢のない平凡な人生だ。私は夢を追う。」

#### 面接6・F

描画：老後、お爺さんと一緒に縁側で日向ぼっこ。



家族： 父・自営業    母・家業手伝い    姉・既婚、専業主婦  
兄・既婚、会社員    姉・大学1回生    本児



＜自由にお話ししてね。＞「お爺さんの肩にお婆さんが寄り添っている。」  
「結婚して子どもを育てて、子どもが独立して、孫がいて、たまには遊びに来て。子どもは1人息子かな。私たちは70歳ぐらい。晴れた日の昼前、日向ぼっこをしている。老後を自分なりに楽しんでいる。幸せ一杯。前には庭があって、お爺さんの盆栽が並べてある。息子が遊びに来たら、盆栽を手伝う。庭はサザエさんの家の感じ。近所との交流が深く、楽しい日々。」「若い時はこの2人は犬が好きだったけれど、今は大人しい猫にかえた。」「お爺さんは、休日には釣りに出掛ける。平日は家にいてお婆さんと家事をしたりしている。以前はクリーニング店をしていたが、今は引退している。息子が店を継がず会社員になったので、店をたたんで郊外に家を建てた。家は平屋建て。高齢だからそのほうが安全。」「息子の意志を尊重している。お嫁さんともとても仲良し。」

＜このお婆さん、どんな人生だったのかしら。＞「高校を卒業して、就職した。」

＜どんな仕事をしていたの。＞「普通のOL。この会社は大手のクリーニング会社。取りあえず2年半ほど働き、夫と知り合い、20歳半で結婚、退職。夫の家はクリーニング店なので、それを手伝った。」

＜そんなふうに思い描く、モデルのようなものはあるの。＞「この絵のお爺さんは私の父、お婆さんは私の母。母も店を手伝っていた。息子は私の兄。私の家はクリーニング店で、兄は会社勤めをしている。父も母も兄もその奥さんも幸せそう。」「私としては、若いお母さんになるのが夢。」

＜お家の方はあなたにどんなふうに接してこられたのかしら。＞「末っ子だから、甘えたで、手の掛かる子。我が儘で欲しいものがあったら、何でもねだる子だったらしい。」

＜あなたの夢を実現させる為に考えている事は。＞「自分を磨いている。私の性格は荒々しく男っぽいから、女らしくなろうと思う。乱暴なことは言わない、優しさはさり気なく出す、好きになった男性に対しても少し甘えてアピールする、電話は時々にするなど。しつこいと思われてはいけないから。」

＜何かお手本はあるの。＞「雑誌かな、セブンティーンなんかの。」

面接 7・F

描画：一家団欒（小さな子どもを真ん中にして私と夫がいるクリスマスイブ）



家族： 父・自営業 母・専業主婦、時折家業手伝い 本児

妹・小校5年生

＜この絵についてお話しして。＞「これは何時か私が結婚してお母さんになった時の絵です。私が小さかった時、家族で過ごしたクリスマスが一番楽しかったです。イブでも仕事などで家族と過ごせない人もいるので、私の家はとても幸せと思う。」「私の人生設計について話すと、私は小さい子どもが好きだから子どもと関われる仕事がしたい。自分が良いと思う時期に結婚して子育てに専念したい。自分は両立が出来ないから、仕事は辞める。」

＜自分が良いと思う時期って。＞「大体25歳から32歳の間。25歳というのは仕事に就くまでの勉強が20歳くらいまでかかるから、それから5年くらい仕事が出来れば良いと思う。32歳くらいというのは、結婚はあんまり遅いのは良くないから。30歳過ぎたらオバサンという感じ。」

＜そう考えるのには、何かあるの。＞「雑誌にそう書いてある。中高生向きの雑誌。『ポップティーン』は主に性情報、『プチセブン』は服装とか好きな人の相談など。大勢の人が読んでいますよ。大体の人がそう思っているし、男の人はもっとそう思っていると書いてあった。」

＜貴女が32歳過ぎたら、どんなふうに感じるのかな。＞「結婚していてオバサンになるのは、良い事じゃないですか。」

＜貴女にとってのお手本になる人って、どんな人。＞「漫画家のKさん。彼女は勝手気ままに暮らしていると言っているが、仕事をちゃんとしている。子どもを産んで育ててとても偉い。でも私は彼女のように出来ないから。」

＜おうちの方はどんなふうに仰るの。＞「母は私にも他の人にも優しい。口喧しくない。よく言う事は『喧嘩をして自分が悪かったら謝りなさい。相手が悪かったらそれとなく気付かせてあげなさい。』という事。勉強については何も言わない。」「中学2年から3年の1学期まで劇団に入りたいと思っていた時も、『入りたければ、良いよ。』と言ってくれた。結局、保育士のほうが良いと考えるようになって、入団は止めた。」「お父さんは私の成績を見たことがない。以前は『お父さんは私の事、どうしても良いのかな』と思っていたけれど、今はとても心の広い人だと思う。」

＜お父さんにそんな疑問を持った事があるの。＞「去年頃。その頃はお父さんに口を利かなかった。反抗期だったのだと思う。母に対しては小学校6年生から中学1年生頃まで。わざと門限破ったりして。門限は5時半だけど6時頃帰ったりした。」

＜反抗期が終息したのは、どんなふうにして。＞「私は吉本興業が好き。関西の人ってみんな好きですよ。でも母は関西の人じゃないから無理解で、大阪まで観に行く事を許してくれなかった。それで無断で行って10時過ぎに帰ったことがある。普通なら学校へ連絡して大騒ぎになるところだけどそんな事はせず、『他の人に迷惑が掛かっていないのだから』と自分達だけで心配していた。」

私の顔を見て泣きながら『言ってくれば、行かせないわけでもないのに。』と言った。それを見て私は『親を心配させないでおこう』と思った。これはとても大きな出来事で、それ以来塾も(母に催促されずに)自分で行くようになった。」

＜絵に描いた日を実現するために、保育士さんになることも含めてこれからどのようにしていくの。＞「どうだろう。うーん、何と言って良いやろ。そういう質問されたら答えられない。何か、困ってしまう。」

面接8・M

描画：僕、妻、子で散歩



家族： 父・自営業 母・家業従事 姉・高校3年生 本児

＜この絵についてお話ししてね。＞「奥さんと手を繋いで、息子を肩車をしている。子どもは嫌いだけど、自分の子は可愛いと思って描いた。3人でとても幸せな時間。」「屹度僕も大人になったら、お父さん達がしてくれた団欒が1番幸せかなと思う。」「小さい頃、家族で出掛けた。ディズニーランド、テーマパークや色々な所へ行った。」「父と母も仲良しだけど、手は繋がらない。こんな絵を描いたのは『家族は1つ』を表現したかったから。」「家の仕事は美容

院。母も父と一緒に仕事をしている。」「父は講習などで忙しいし、僕は塾とかに行って時間がない。中でも父と一緒にテレビを見たり、新聞のニュースの事を教えてくれる。」「親子喧嘩はする。勉強していない時にそれを指摘されると『やってるやんか。』と言ったり、愚痴も言うし、テストの点数を言われた時など。まあ、良くあるケースと思う。」

＜ここに描かれている奥さんって、どんな方？＞「優しくって清楚な人。これはお母さんのイメージがある。」

＜お母さんはどんな感じの方なの。＞「明るく、清楚。柔らかいし、包んでくれる。」「僕にとってのモデルは、強いて言えば僕の家庭。それを更に修正したのがこの絵になる。絵の中では2人は手を繋いで、子どもはお父さんの頭にしっかり掴まっている。僕は文章よりも絵の方が描きやすい。」

＜実現の為に考えている事はあるの。＞「自分は気が長くないので、もう少し穏やかになりたい。父は気性が激しく怒ったら手当たり次第なので、母も一時期大変な時があった。僕が小学校3・4年の頃些細な事で喧嘩をしているので『こんな親父になるものか』と思っていた。今でも苛々してよく喧嘩する。疲れやストレスのせいと思うけど、母はそれを受け止めて大変。母だって疲れているのに。だからこの絵は、現実プラス自分なりの父親像の修正。」「母にはもう少し別の人生があったかも知れない。あの頃は貧しかったから、美容院の僕の家に修業に来ていて見初められた。本当は絵の道に進みたかったと言っていた。」「僕の妻は、仕事も家庭もやってくれる人が良い。母がそうだからそう思う。僕は、出来たら音楽の道に進みたい。」

#### IV・考察

1) 描画と来談者中心面接の組み合わせによる援助及び指導の、意義と効用について

描画法には、バウムテスト・風景構成法・HTPテスト・家族画法・課題画法・

自由画法その他様々な技法があり、次々と新しい描画法が創出されている。

従来描画法は、心理療法・心理テストの場で用いられる事が多かった。対象者の自由度と客観性という観点から見ると、描画法は、客観性は低く自由度は高いという特性を持つ。

描画は、人間の精神活動を表現する優れた1方法である。幼児のなぐり描きやラスコーの壁画を待つまでもなく、「何かを表現したい」との原初的な欲求が描画を生み出すのであり、それ故描画を通して個人の内面・心理に触れることが可能なのである（皆藤 1988）。またその内的欲求に導かれた描画は、巧拙を超えて生き生きとした感動を伝えるメッセージ性を有する（同）。このメッセージが非言語によるものであるが故に、高度の言語力をもたなければ表現し得ない感情・背景や付加情報を内蔵する。

しかしそのみで解釈するには危険性を伴う。自由度を重視した描画法は個人の内面を理解するのに有効な技法であるが、同時に客観性が低いことによる危険性をも有する。この点についての描画法への批判の分析は青木に詳しい（1979）。同様の批判は他にも多く、例えば描き手のメッセージを恣意的に理解してしまう危険性があるとも指摘され（皆藤 1994）、1枚の絵を“読み”すぎる失敗の例は少なくなく、総合的な情報と表裏にして判読すべきである（高江洲 1981）とも述べられている。

実際のテストやセラピーの場面においては、描画作品完成後に質問をする。描画に込められた被験者のメッセージを正確に汲み取る一助にするためである。

従って本調査の場合も、描画法の特性を活かしつつ何をどう語るかを語り手に委ねるという、語り手にとって自由度の高い「来談者中心療法」（Rogers 1941・1951・1961）の応用である「来談者中心インタビュー」との組み合わせを試みる。これにより、恣意的解釈を避け、より効果的に内面に出会い得たのではないかと考える。とりわけ、学校教育の場面であることを重視すると、描画を解釈する為に用いるのではなく、語ることや考えを纏め

ることを助ける為に用いる事が妥当であろう。1979年の創立以来就職率ほぼ100%を保ってきた静岡県立湖西高校においても、教育相談の手法を積極的に活用したキャリア教育を推進している（湖西高校 2009）。

意識調査の動機付けに描画を用いた先行研究としては Draw-A-Car-Test がある。言語表現が未熟な子どもでも、自動車の絵なら気軽に描き、描かれた1台の自動車についての質問を通して子どもとの会話が成立し、テストのみではなく治療の導入になる。描画を媒介にして会話が成立するのである（Loney 1971）。高江洲（1979・1981・1998）、徳田（1979）もそれを主張する。

同様のことを中井も述べている（1985）。「芸術療法はただ“示す”だけではなく“語る”ことを助けるようだ。それはただそれを巡っての会話が育つという意味だけではない。（中略）考えのまとまらない患者が（中略）粘土をこねながら面接すると不思議にまとまった話ができるようになることがある（中略）。粘土は、芥川龍之介の短編『手巾』における夫人のハンケチの役割をする」と。

成人に対しては、アメリカに於けるアジア系管理職の職業意識調査があり、描画をインタビューの契機に用いている（Granrose 1995）。

先行研究に基づいた今回の試みの中で、生徒達は豊かに自己の内面を語った。自己の描画を前に、意識を言語によって明確化し、客体化する。自己に対する尊重と受容と共感的理解に支えられた「来談者中心インタビュー」によって自発的に語る時、自己の意識や判断に対する再検討が始まり、新発見・再確認・再構築がある。反省や迷いも生じる。教師と生徒がこれらを共有することにより、「自己理想」が顕在化し始める「初期青春期」に、職業意識形成に取り組む学校文化を創造しうる。質問紙法では、これらのプロセスや揺らぎを窺い知り共有する事は難しい。

## 2) 実施時期についての吟味

個人差はあるにしても、中学生の時期は Erikson によれば青年期前期に属し、その課題はアイデンティティの確立である（1950）。また Bros によれば第



2の固体化の時期(1962)、即ち精神的に親から離れ、個を確立していく時期であるとされる。皆川は、中学生を一応の目安として初期青春期に位置づけ、自己理想確立の時期であるとしている(1980)。

しかも現代日本の中学3年生は、卒業に伴う次のステージを控え、自発的であれ非自発的であれ、自己の未来像を考えざるを得ない状況に置かれている。

従って、この時期は3年間の中で最適といえよう。

## V・結論

この手法を「描画と来談者中心インタビューの組み合わせによるキャリアカウンセリング」若しくは「キャリア教育」と名付けるならば、これによって、「自己理想」が顕在化する青年期前期の心をかなり詳しく捉え得たのではないかと思う。従ってこの手法は対象者の心の動きに添いつつ、未来像追求の促進、或いは動機付けに有効である事が明らかになった。

生徒たちは迷い、悩み揺らぎつつ自身の人生を長いスパンで見詰めながら、今をどう生きていくべきか、何に取り組んでいくべきかを考えていく力(自己実現の力)を身に付けていくであろう。これはこの年代の発達課題である。その営みを通して自らの人生を選び取り、主体的に歩んでいくことが出来るようになる考える。

加えて今回のこの調査は、カウンセリングの理論と手法とりわけ「来談者中心カウンセリング(Client-Centered Counseling)」の果たす意義と効用を確認する機会ともなった。人は自らの語りにじっと静かに耳傾けてくれる存在を前にした時、安心して語り、時には批判し、それを通して自発的に自己吟味や分析をし、状況の中で自分に相応しいことを探しつつ動きだし、生きていくのである。カウンセラーの役割は、語り手の「生きる力」あるいは「自己指導力」に対して信頼と尊敬をもって同伴すること、即ち支援することなのである。この姿勢は、親や教師が我が子や児童生徒学生に対する時の基本的姿勢でもあろう。

併せて、生徒達は良い機会さえあれば自らの内面を語る事を欲し、語り得る事も知り得た。事前には「なんで僕が行かんとあかんの。早く帰りたい。」と不服を漏らしていた生徒を含め、終了する時には皆にこやかな笑顔になっていた。「有り難う御座いました。」「楽しかったです。」と告げた。ある男子生徒は、面接の前日に自分の幼かった頃の事を母に尋ねたという。後日「面接をきっかけに私は自分の事を考えるようになりました。」と書いた手紙をくれた生徒もいる。各担任からの「生徒達は喜んでいました。」「どの生徒も皆、それぞれに考えているものなのですね。」等のコメントもあった。生徒達は自己の成長を実感するようである。

### <参考文献>

- 青木健次 1979 「投影描画研究の動向」『教育学部研究紀要』（京都大学）。
- Blos, P. 1962 *On Adolescence*, Free Press, (野沢栄司訳「青年期の精神医学」誠信書房 1971)。
- Erikson, E.H. 1950 *Childhood and Society*. (仁科弥生訳「幼児期と社会」みすず書房 1977)。
- Granrose, C.S. 1995 “Career Images of Asian Managers,” *Paper Presented at Academy of Management 1995 Annual Meeting, Vancouver, BC*.
- 平田 満 2005 「カウンセリングの視点から見た学校進路指導：個が生き育つキャリアカウンセリングとは」『カウンセリングセンター紀要』（京都市教育相談総合センター）。
- 皆藤章 1988 「描画法」山中康裕・山下一夫編『臨床心理テスト入門』東山書房。
- 同 1994 「風景構成法・その基礎と実践」誠信書房。
- 国立教育政策研究所 2004 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」。
- 湖西高校（静岡県立） 2009 「児童期・思春期におけるキャリア教育の進め方」（日本教育心理学会第 52 総会配布資料）。

厚生労働省・文部科学省 2011・1・18「平成22年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査」。

Loney, J. 1971 “Clinical Aspects of the Loney Draw-A-Car Test : Enuresis and Encopresis,” *Journal of Personality Assessment*, 35.

皆川邦直 1980「青春期・青年期の精神分析的発達論：ピーター・ブロスの研究をめぐって」 小此木啓吾編『青年の精神病理』弘文堂。

文部科学省 2005「キャリア教育の推進に向けて：児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために」。

村上龍 2003「13歳のハローワーク」幻冬舎。

中井久夫 1985「精神医学の経験・治療」『中井久夫著作集2』岩崎学術出版社。

Rogers, C.R. 1942 *Counseling and Psychotherapy : Newer Concepts in Practice*, Houghton Mifflin Company, 1942: 保坂享・諸富祥彦・末松康弘訳『カウンセリングと心理療法・実践のための新しい道』（ロジャーズ主要著作集・1）岩崎学術出版社 2005。

—— 1951 *Client-Centered Therapy : Its Current Practice, Implications, and Theory*, Houghton Mifflin Company, 1951: 同 訳『クライアント中心療法』（ロジャーズ主要著作集・2）同社 2005。

—— 1961 *On Becoming a Person: A Therapist's View of Psychotherapy*. 1961, Houghton Mifflin Company New York. 2, 1961: 同 訳『ロジャーズが語る自己実現の道』（ロジャーズ主要著作集・3）同社 2005。

高江洲義英 1979「絵画療法の実際：実践を通しての覚え書き」徳田良仁・武正健一編『芸術療法講座1』星和書店。

同 1981「芸術療法の適応ということ」大森健一・高江洲義英・徳田良仁編『同3』同社。

同 1998「集団療法と芸術療法」大森健一・徳田良仁・飯森真喜雄・中井久夫・山中康裕監修『芸術療法1・理論編』岩崎学術出版社。

田村和弘・松井賢二 2006「中学校における職場体験の効果：進路意識への影響を中心

に」(日本キャリア教育学会第28回研究大会発表論文集)

徳田良仁 1979 「芸術療法の展望」 徳田良仁・武正建一編『芸術療法講座1』星和書店。

中央教育審議会 1999 「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」。

同 2010 「キャリア教育・職業教育特別部会答申」。